

平成 20 年度 学部入学式告辞

新入生諸君，入学おめでとう．今年も昨年に引き続いて校内の満開の桜が君たちの新しい門出を祝っております．また，香川大学の教職員と在学生一同は君たち 1,333 名を心から歓迎します．

社会常識からすれば「大学生になったら大人」との理解が何となくあるように受け取られていますが，何歳から大人と考えればよいのでしょうか．江戸時代の武家や公家では，現在の成人式に相当する元服が 15 歳に達した男子に行われ，その通過儀礼を受けたものは大人とみなされました．明治半ばから民法で男女を問わず 20 歳からを大人と遇しました．

イギリスでは 21 歳の誕生日に大人の仲間入りをすると聞いたことがあります．伝統的には 18 歳の誕生日に鍵のマークが入ったカードを両親からもらうそうです．昔は本当に鍵が渡され，「何時に帰ってきてもいい．どこで何をしてもいい．後はあなた自身の人生よ」という，権利と自己責任の象徴というわけのようです．両親にとっては，子育ての責任を果たした節目にもなります．選挙権は 18 歳からで，タバコは 16 歳から，お酒は 18 歳からよいと聞きました．

最近，成人となる年齢を引き下げる是非を法務大臣が法制審議会に諮問し，話題になっています．そのきっかけは，昨年成立した憲法改正を問う通称国民投票法において，18 歳から投票できると定めたことによります．大人とみなす年齢については多くの意見があるようです．「大学生になったら大人」との社会通念はありますが，物心両面での自立について考えると「大人とは」に答えるのはむづかしくなります．しかし，大学生になったら，何をしたいのか，ダメなのかを自分で考えて判断することが社会通念として求められます．

大学は君たちを大人として扱います．大学は基本的に自主性と自己責任の社会ということです．今までのように先生の指示や指導に従って動くのではなく，今日からは君たち自身が自主性と自律性を持った大人になってください．しかし，大学は君たちを突き放しているわけではありません．香川大学には諸君らの勉学や大学生活を支援するために多数の教職員がおり，それに加えて支援するシステムや設備がたくさんあります．それらを君たち自身が積極的に活用してくれることを期待しています．

大人になったからと言っても、自分を律するのはなかなかむづかしいものです。学校などの教育組織でも、そこに所属する人たちを律するには多くの場合規則を設けます。規則は人をある枠の中に閉じ込めようとするのですが、規則というものからは人を育てようとする気持ちがあまり伝わってこないと私は感じています。自分自身でなりたい目標を設定し、自分の行動や発言、態度をその目標に対して検証する方が人を育てるのに適しているように思えてなりません。

Be gentlemanly 紳士たれ。最近ほとんど聞かなくなったことばですが、私はこの言葉をたいへん気に入っています。日本国語大辞典によれば、紳士は「性行正しく、礼儀に厚く学徳、気品を備えた人」と書かれています。具体的には、自分自身にいちばんピッタリくる立派な人間のタイプを理想像として求め、自分自身の行動や発言、態度を常にそれと検証することによって自己啓発がさらに進むことが期待されます。

さて、大学は本来学問を通して感動を分かち合い、喜びを共有する場であると私は思っています。また、それと同時に、学問を通して、自立した一人の人間として社会で生きていくための力を養う場でもあるとも思っています。自立した一人の人間として社会で生きていくための力を人間力と表現されることがありますが、その人間力は知力、実践力、社会力に分けて考えることができます。知力、実践力、社会力の多くは学問を通して学ぶことは可能ですが、実践力や社会力の一部である健康力やリーダーシップなど養成には4年間の学部教育課程だけでは十分でないと思っています。

課外活動が君たちの人間力の養成には大切な場になります。また、友だちや教員との交流が実践力や社会力の養成に極めて効果的であります。学生同士の間はもちろん、学生諸君と教員の間には基本的に利害関係はなく、真の意味で人間と人間との交流が生まれます。さらに、そこでの交流は一生を通しての交流につながり、生涯の友であり、生涯のよき相談相手になり、将来にとってかけがえのない貴重な財産になることは間違いありません。

われわれ教職員は君たちを全力で支援します。本学での学生生活を通して豊かな人間性と高い倫理性の上に幅広い基礎力と高度な専門知識を備えた大人になることを期待しています。また、君たちが自分自身で誇れるような大学生活を送ってくれることを願っています。

香川大学

平成 20 年 4 月 4 日

香川大学長 一井 眞比古